

真鶴町立真鶴中学校

研究テーマ：目標を持って、主体的に学ぶ力の育成
—幼小中、12年間の学びを見通した授業づくり—

1 実践の目的

昨年度から「目標を持って、主体的に学ぶ力の育成」を主題として校内研究に取り組んでいる。これは、変化の激しい現代社会では、学ぶ意欲や主体性を育み、激しい変化に対応できる力を養うことが求められ、目的意識をもって、他者と協力しながら課題を解決していく能力を育成することが必要であり、主体的に学ぶ力の育成の重要性は増している。

真鶴町には幼稚園、小学校、中学校がそれぞれ1校ずつあり、これまで幼小中連携教育を進めてきた。近年の学校規模縮小の流れの中、一貫校設立にむけた検討が始まり、12年間を見通した新たな真鶴町の教育が求められている。『目標を持って、主体的に学ぶ力の育成』を行うにあたって、中学校卒業時の真鶴の子どもたちの姿を思い描き、「幼小中、12年間の学びを見通した授業づくり」を副題とし、研究を深めることとした。

2 実践の内容

(1) 研究の進め方

- 学習のめあてとまとめを明確に位置づけ、生徒みんなが「わかる・できる」授業に視点をおいて、授業改善に取り組む。
- 1人1回以上は、教科で授業提案を行う。
学年ごとに3つのグループに分け、お互いの授業を参観し、研究協議をとおして授業改善に役立てる。
- 幼小中12年間の学びを意識し、小学校における学習の程度を把握した上で各分野

の指導にあたる。そのために、小学校の授業を積極的に参観する。

○年度初めに教科で「生徒の実態」「生徒につけたい力」「具体的な指導方法」を考え実践し、年度終わりには「実践」「成果と課題」をまとめる。

(2) 授業提案・研究協議の様子

所属学年を基本として3つのグループに分け、各自年1回以上の授業提案と研究協議を行った。10月3日の校内研究全体会での代表者の授業については、次の4つの視点に留意し、チェックリストを活用しながら事前に指導案検討会を行った。

①「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」のつながりを意識した授業展開となっているか。

②生徒の実態を踏まえ「わかる・できる」授業に視点をおいた工夫がされているか。

③幼小中12年間の学びを意識し、既習事項を活用した授業となっているか。

④単元目標を達成するための1単位時間として、単元計画での本時の役割や位置づけが適切であるか。

特に④の視点は、昨年度の反省で、主体的で対話的な深い学びは1単位時間の授業の中だけで実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で生み出されていくといった視点をもつことの重要性を確認したことから、今年度の重点として新たに加えた。

全体会当日は各グループで事前検討した授業を参観し、研究会で協議を行った。

2年数学「1次関数のグラフをかいて、それぞれの違いを考えよう」

活動内容が明確だったため、生徒は見通しをもって取り組むことができ、生徒同士も教えあいながら活動も活発であった。くり返し行うことによって理解が深まり、定着につながっている。

1年理科「パルミチン酸の加熱実験を行い、温度と状態変化の関係を知ろう」

振り返りをしっかり行い、本時の活動につなげることができていた。実験の役割を明確にすることで、班ごと協力して取り組むことができた。

1年英語「目的・場面・状況を確認しながら、教科書音読をしよう」

活動がいくつも用意されていて、飽きることなく取り組むことができた。時間制限があることで集中して取り組んだ。ペアでの音読に生徒は意欲的に活動したが、発表の仕方などに改善の余地がある。

（3）幼小中合同教育研究会

真鶴町立の幼稚園・小学校・中学校で幼小中一貫教育校実現に向けた課題の整理、12年間を見通したカリキュラムの再編・再考、実践研究を行った。「ふるさと教育」「外国語教育」「学校づくり」の3つの部会を定期的に行い、幼小中で互いの授業や学校の様子を見合い、今行っている活動の現状把握と今後の方針について話し合った。今年度は新校設立の方向性が明らかになり、目指す学校像について意見を交わす良い機会となった。

（4）まなびづくり研修会

6月19日（水）早稲田大学小林宏己名誉教授より講演をいただいた。様々な一貫校の例を見ながら、真鶴町が目指す一貫校の在り方について考えた。1年生から9年生までの子供たちの成長や発達について考え、9年間を見通しをもつことの必要性を学んだ。また、最終的には教師力、授業力が大切

であり、主体的に学ぶ力の育成にむけて授業改善の重要性を確認した。

3 実践の成果

生徒アンケートを見ると「見通しを持ったり、振り返ったりしながら学習に取り組んでいるか」という項目で、1学期は「あてはまる」「ややあてはまる」と肯定的な回答をした生徒は11.5%だったが、2学期になると20.6%となった。一つの授業の中で、めあての提示、授業の展開、まとめと振り返り、という流れを意識した授業づくりが定着してきた成果と考える。

また、単元計画をしっかりと確認することで、本時が単元目標を達成するための、どのような役割を担っているのかを明確にすることができ、見通しをもった授業づくりにつなげることができた。

既習の知識を用いて、それを生かしながら学びを深めようとするのが、主体的な学びにつながっていくと考える。理想の生徒の姿を想像し、どういう手立てをしたらその姿が見られるのかを考えることや、本時の学びがどうだったかをしっかり振り返ることによって学びを設計することの重要性を確認した。

研究会を通じて真鶴町が目指す新しい学校の在り方について、幼稚園、小学校の先生方とともに考えることができた。

4 今後の展開

- 見通しや振り返りの仕方、見取り方を工夫し、生徒が粘り強く、主体的に学ぶ力につなげる。
- 幼小中12年間を見通したカリキュラム編成を進める。